

IMJ 北海道支部ニュースレター

日本統合医療学会北海道支部事務局

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条6丁目5-1 札幌北極病院 図書室内
TEL 011-865-0111(内線1591)FAX 011-865-9719 E-mail jact-h@hokuyu-aoth.org

No.7

寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す 生(スピリチュアル)をささえる 統合医療ケアの実践と普及活動

札幌市立大学看護学部
日本統合医療学会理事・統合医療認定師(看護師)

猪股千代子



今日の医療・看護は、医療機器に囲まれた業務処理に追われ、患者に寄り添い、その人の生きる力を高めるようなケアがどれほど行われているだろうか。患者と看護師はそれぞれ

の人生の旅路の中で出会って、人の心に触れる機会を頂き、多様な人生をダイナミックに学ばせていただいている。“生きる”こと、“ケアすること”を通して得られた無数の経験知を看護師は、患者さんにフィードバックしているだろうか。思いやりの関係性が薄くなっていないだろうか。

私は、統合医療の考え方出会い、2009年から「ハマナス・音楽&看護療法研究会(HOKT123)」を立ち上げ実践・研究・教育の場づくりを行っている。本会は、医療従事者と音楽療法士やアロマセラピスト、ヨガセラピストなどの代替療法士の方と共に、自然治癒力を高める新しいケア方法を創造することに挑戦している。参加患者は、現在のところ神経難病患者、特にパーキンソン病や脊髄小脳変性症の方が大半を占めている。

現行のヘルスケアシステムにどのようにすれば安全で、患者のニーズに即し、質が保障された自然治癒力を高めるケアを提供できるのかの視点で、プログラム作り、実践、効果の評価までを行っている。時に、看護学生などの教育の場となり、健康づくりのための市民との交流の場となり、保健医療福祉職の人々に統合医療を知って頂く場となっている。

この場から、真のチーム医療のありかたをセラピ

ストや患者との関係性から学んでいる。また、ケアリングとは何か、癒しとは何か、健康とはどのような状態を表すのか、スピリチュアリティを育むケアとはどのようなものかなど、患者さんも交えて意見交換を行っている。参加者(患者・看護職・セラピスト)に対するインタビューによる研究から、この場は、「寄り添い・絆を深め・しなやかな心を取り戻す生(スピリチュアル)を支えるケアが繰り広げられ、生命が響きあい、生きていく力を強めている」ことが導き出された。患者は、身体症状改善や患者同士の交流を期待し、参加した結果、意識の拡張や靈的成長をもたらし、生きられる工夫や養生法を見出し、愛他精神が育まれていた。

会を立ち上げた頃、看護職は代替療法の知識や技術不足の中でチームの役割が見いだせない状況であった。しかし、ナイチンゲール精神の原点に立ち返り、癒しのケア実践をとおし、あらためて看護の価値を再確認できた。セラピストにとっては、患者さんの多様なニーズに応える癒しの技術を洗練する機会となり、実践能力の向上をもたらした。

人間は、自分のためだけに生きていくとすると、時に心が折れそうになるが、自分を気遣ってくれる人のために、他者のために生きようという意識が働くと、思いもかけない力が湧き出し、生きられる術を見出すようである。

最近では病院の院長・事務部長・看護部長へ、統合医療について説明させていただく機会や、統合医療の考え方を看護や介護に取り入れるための研修会の場を頂くことも増え、徐々に地域に広がってきていくと実感している。

シリーズ 私の考える統合医療 第1回 統合医療のこれから

響きの杜クリニック 西谷 雅史

日本統合医療学会では統合医療を以下のように規定している。「対症療法」を中心とした近代西洋医学と「原因療法」を中心とした伝統医学や相補・代替医療を統合することによって両者の特性を最大限に活かし、一人ひとりの患者に最も適切な【オーダーメイド医療】を提供すること」つまり、救命救急や外科手術など急性期では西洋医学を中心に、慢性疾患の治療や体質改善、予防医療は伝統医学や代替医療を中心に据えて治療する」としている。患者の立場からすると、西洋医学、代替医療にとらわれずにあらゆる医療を駆使して自分の病気を治してほしいと思うのは当然のことで、多くの患者はこのような統合医療の一刻も早い実現を待ち望んでいる。しかし両者の間には依然としてかなり大きな溝があるのが現状である。以下に問題点について述べてみたい。

1. 西洋医学では自然治癒力を認めない。

遊牧民や狩猟民族を起源とする西洋人には、人間は自然の一部という考え方ではなく、自然とは常に外界にありコントロールする対象としてきた歴史がある。このため西洋医学では症状は病気の一部で有り、症状に対抗し抑えることで病気が治癒すると考えており、自然治癒力の存在は認めていない。実際、病院で出される薬には抗生物質、免疫抑制剤など病気に抵抗し抑える薬が多い。一方農耕民族である東洋人は、自然は母なる存在であり、人間もその一部であるという人間観をもっている。従って自分の中にも自然と同じように病を治す力が存在することを当然のことと考えている。ここに西洋医学と東洋医学との根本的な違いがある。実は西洋医学では自然治癒力のことをプラセボ(偽薬)効果と呼んでいる。プラセボ効果とは偽薬でも薬だと偽って投与されると患者の病状が改善する効果をいう

が、これこそが意識によって発揮された自然治癒力の証明である。

2. 代替医療は玉石混交状態

WHOによれば世界の65から80%は西洋医学以外の“伝統的医療”が行われている。これら伝統的医療が西洋社会で用いられた場合は代替医療と呼ばれる。代替医療には①中医学を始めとする各国の伝統医学②ホメオパシーなどの現代医学に対抗的な医学体系、③広義の民間療法④サイコセラピーやボディワーク、エネルギー療法などの心身相関療法⑤健康食品、サプリメント類などがある。独自の理論体系が確立され専門の教育機関のある①、②以外は特別な規制もなく、まさに玉石混交状態だ。実際に詐欺的な治療に引っかかり被害を受けているケースもみられ、西洋医が代替医療を嫌う原因にもなっている。

3. 統合医療医の養成が急務

西洋医は代替医療を非科学的なものととらえ頭から否定することが多く、代替療法家は西洋医学を対症療法に過ぎないと批判し自分たちの優位性を主張する。その間で患者は翻弄され、西洋医学だけで徹底的に治療をされたり、代替医療だけに走って手遅れになったり、西洋医のいうことを聞かず見放されがん難民となって行き場を失っている患者もいる。

現在、一番必要とされているのは、それぞれの誤解を解き患者に寄り添った形で双方に理解と知識のある西洋医を増やすことと考える。そしてこのような医師が中心となり、患者毎の治療プログラムを作成し、医師と鍼灸師をはじめ様々な代替医療セラピストが協同で加療していく統合医療センターの実現を私は夢見ている。

SARSの統合療法でゼロ死亡率の教え

陶氏診療院・漢方アロマ療養師育成校 陶 恵栄

SARS、重症急性呼吸器症候群、Severe Acute Respiratory Syndrome、日本語略称 サーズ。SARSが知られるようになったのは、10年前にさかのぼって、2003年2月のことである。中国からの旅行者であるアメリカのビジネスマンがシンガポールへ向かう航空機の中で肺炎に似た症状を引き起こした。飛行機はベトナムのハノイに着陸したが、ハノイの病院でこの旅行者は死亡した。病院の基本的な処置にもかかわらず、彼の処置に当たった医師や看護師が同じ症状を示し、何人かが死亡した。この症候群の病原性と医療従事者への感染は世界中の保健当局を恐れさせた。ハノイ在住のカルロ・ウルバニはWHOへ報告をおこない、病気の名前は「SARS」と命名し、カルロ・ウルバニ医師も3月29日にSARSで亡くなった。SARSの高い死亡率(最高香港は17.03%)、医療関係者の感染と犠牲は世界中の保健当局を恐れさせた、2003年3月12日、WHOは世界規模の警報を出した。

最初の患者は2002年7月遡る。中国広州市呼吸病研究所の発表報道がある。発症したのは2002年11月16日に広東省で40代の農協職員であった。2003年7月に新型肺炎制圧宣言が出されるまでの間に8,098人が感染し、774人が死亡した。SARSは、新型肺炎(非典型肺炎、中国肺炎、Atypical Pneumonia)とも呼ばれている。

人類が未知の病原菌に感染して、世界で大流行した疫病が歴史上に沢山あるが、最終的に人類が乗り越えたのも事実だ。しかし、そんなに危険な病原菌による危機を乗り越えるときに、現代西洋医学と伝統医学は認識の違いにより、対応が違い、結果も違ってくる。

国名	発症数	死者	回復	死亡率
中国	5327	348	4941	6.35%
香港	1755	299	1433	17.03%
台湾	307	47	***	15.30%
カナダ	250	38	194	15.20%
シンガポール	206	32	172	15.53%

2003.7.11 統計により



ゼロ死亡率、ゼロ院内感染率、ゼロ重症患者転院率、ゼロ後遺症という偉業を出せた中国の医療施設がある。名前は広州中医薬大学第一附属医院である。当時の統計に触れて見よう。

10年前のSARS、世界30カ国と地区に患者が発症し、百人以上の感染者出た国と地区的死亡率を統

計で見ると、平均は11%である。その中、死亡率の高い順の国と地区は、香港17.03%、シンガポール15.53%、台湾15.30%、カナダ15.20%、中国6.35%である。中国のSARSの発症地の広東省は3.80%、広州市は3.60%、広州市の広州中医薬大学第一附属医院は0%である。

中国での死亡率が低い理由は、急性空気感染の伝染病に対して、西洋医学の対症療法、隔離手段のほかに、中国医学の力を生かした統合医療の勝利と言つても過言ではない。特に、中国医学を基本にする統合療法では、死亡率ゼロまでできた人類の完全勝利事例として、広く知らせたい。

死亡率の11%と0%、違うのは何か。その違いの理由は未来の人類に感染症が襲った時に、対応と予防にヒントになるのではないか。

普通、急性伝染病が流行っている時、西洋医学を頼り、病気の病因である病原菌を見つけ、対応策を取る。SRASはSARSコロナウイルスにより引き起こされる新種の感染症であることが広がる早期にすぐに分かった。でも、抗ウイルスに働く有効薬物がないから、西洋医学に残っている対応策は対症療法のみだ。急性炎症に対して、呼吸困難な重症患者の気管を切開して、人工呼吸器を使い、炎症を抑えるため、副腎皮質ホルモン剤を大量に使い、病死を逃れた患者が、大量ホルモン剤使用後に、「股関節骨頭壊死」、「肺線維症」などの後遺症に悩まされる。

統合医療の教えその一 第一時間で病気治療より人を治療する、漢方の関与を積極的に参入

広州中医薬大学第一附属医院では、中国医学の考え方で、病原菌が分からなくても、SRAS病の症状から「温疫病」と認識し、気候環境、病原菌の拡散、人の正氣不足と邪氣を防ぐことができないから、発症に至ると考え、病気の最大の病因はSARSコロナウイルスではなく、免疫の弱っていた人であるとし、そのため、まず人の正氣を補うことに力を入れた。

医院側は、中国医学の指導の元に、SRAS専用处方の漢方煎じ薬を大学、病院の全員に飲ませ、または病院の従業員の家族、患者家族まで、徹底的に予防した。漢方の応用で、広州中医薬大学第一附属医院入院患者の死亡率がゼロのほか、他の病院の重症患者を回診した症例も死亡率ゼロになった。患者の発熱も漢方投与により、早く下がり、最短時間が一日であった。治療の期間が短縮して、回復期も短縮された。後遺症もゼロになった。

統合医療の教えその二 負圧密閉隔離より新鮮空気交換できる隔離病棟管理

新鮮な外気と十分交換できる換気の隔離病棟で漢方治療する。十分な新鮮空気と落ち着く環境が、患者の心身ともに改善効果を促進する。患者と家族、

医療関係者に、それぞれ隔離の意味と方法を教育し、院内感染を徹底的に予防し、結果は院内感染、特に病院の医療関係者感染ゼロの成績を作った。

統合医療の教えその三 統合医療の長期効果の追跡調査、後遺症がない

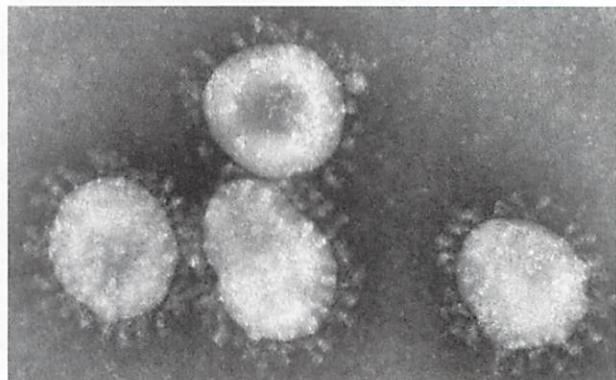
広州中医薬大学第一附属医院治療の73例のSARS患者は、全員退院し、一年後追跡調査が実施された。生理・心理・社会関係・環境の四つ領域と生理機能・生理職能・身体疼痛・全体健康・社会功能・情感職能・活力・精神健康の八つの内容、および健康変化で、正常健康対照群と比べ、統計学上有意差が無かった($P>0.05$)。漢方治療後の生存者の生活の質、治療の即効性と長期効果、安全性が証明された。股関節骨頭壊死、肺線維症などのSARS後遺症は認められなかった。

統合医療の教えその四 中国医学の治未病(未病先防、既病防変)の有効性

中国医学には予防科がないが、2000年前の「黄帝内經」に早期発見、早期治療の予防医学思想の治未病理論のまとめがある。具体的には、未病に予防し、既病(現病)に悪化を予防する。2003年の

SARS治療の中国医学の有効性の経験から、2005年の鶏インフルエンザ、2009年豚由来のインフルエンザ時にも漢方を積極的に予防治療に参加させ、広州中医薬大学第一附属医院の外来にて、無料で専用予防漢方湯薬を配布することで、中国医学の治未病の有効性が証明された。

2003年のSARS危機から10年経った。ゼロ死亡率の素晴らしい統合医療の成果を再確認し、伝統医学の教えを人類の知恵として、これからの医療戦略の方向を導く明るい統合医療の未来を確信することができる。



SARSコロナウイルスの電子顕微鏡写真

IMJ北海道支部会員募集

入会希望の方は下記の連絡先まで電話かE-mailにてお気軽にお問い合わせください。

年会費 1000円

特典 支部会参加費無料、ニュースレターの購読

連絡先 IMJ北海道支部事務局

E-mail:jact-h@hokuyu-aoth.org
(札幌北楡病院図書室内 TEL:011-865-0111(内線1590) FAX:011-865-9719)

『礼節』と『心』の人間教育



厚生労働大臣認定・専修学校認可 社団法人東洋療法学校協会加盟校

北海道鍼灸専門学校

入学案内や願書はホームページ上でもご請求頂けます



鍼灸科 昼間部
修業年限:3年間
定員:30名

鍼灸科 夜間部
修業年限:3年間
定員:30名

北海道札幌市西区山の手2条6丁目

TEL:011-642-5051

FAX:011-614-3478

URL:<http://www.shinkyu.ac.jp>

第14回日本統合医療学会（IMJ）北海道支部会

～平成24年10月20日（土）14時から17時 藤女子大学北16条校舎755・756講義室にて～

平成24年10月20日（土）藤女子大学北16条校舎755・756講義室にて第14回IMJ北海道支部会が開催されました。今年度は一般演題が4題で特別講演が2題、参加者は81名でした。

一般演題1は、陶氏診療院院長医学博士の陶恵栄先生による「黄帝内経食養生法の実践で症状改善二例」と題する発表で、現代社会での栄養バランスの崩れ、化学添加物乱用などの乱れた食生活によって健康被害が生じている。それを「黄帝内経」に基づく五穀をよく煮込んで醸酵させて作った五臓六腑治療剤にて改善していった2例を報告されました。

一般演題2では後藤カイロプラクティックオフィス院長の後藤雅博先生が「カイロプラクティックと腰痛防止エクササイズ」と題し、主に関節の機能についてのカイロプラクティックの解説と、正しい姿勢を意識してエクササイズによる腰痛などの防止について、会場にて簡単なエクササイズを紹介する参加者体験型の発表をされました。

一般演題3は北海道鍼灸専門学校の高砂壽光先生による「実験的筋疲労に対する鍼刺激の影響—局所刺激と遠隔部刺激の比較」と題する発表で、鍼刺激の局所刺激と遠隔部刺激による疲労係数の違いについて、同一被験者に対し運動負荷後に行う鍼刺激の効果を無処置の場合と比較して考察されました。

一般演題4は北海道鍼灸専門学校の二本松明先生が、「合谷穴への鍼通電刺激が顔面部F波に及ぼす

影響」と題した、合谷穴へ局所電通刺激が顔面部の運動神経の興奮性にどのような影響を及ぼすかを検討されました。

特別講演Iは東海大学名誉教授の西村弘之先生による「食と医の連携で生活習慣病予防と道内経済活性化」と題する講演でした。西村先生はテレビの出演経験や数々の著書があり公演当日のも販売した著書も即完売になり購入できない人もいるほどでした。道内産食材のチコリー、ヤーコンなどの寒冷地に適した作物は生活習慣病予防効果が高いことを研究成果として発表され、この成果を社会還元することを目的にベンチャー企業など幅広い活動を紹介されました。“食”は日々の生活に欠かせないものであり健康にも直結するためテレビ番組でもよく取り上げられるように、多くの参加者の興味を引く講演となりました。

特別講演IIは東邦大学医学部統合生理学教授である有田秀穂先生による「セロトニン体操」と題する講演で、セロトニン神経の働きは睡眠時には休止するため朝起きた時にきちんと発現しないと、抑鬱気分の出現など身体に様々な悪影響が出てくる。リズム運動の集中によってセロトニン神経を活性化させる方法を紹介していただいた。この体操は日々の生活に容易に取り入れられる健康法であるため参加者の方にとっても有意義なご講演となりました。

日本統合医療学会（IMJ）北海道支部の理念

日本統合医療学会北海道支部
支部長 藤井 義博
(藤女子大学副学長・教授)

現代日本の急激な少子高齢化の進行にともなう医療費負担の増大が大きな問題になってきています。この問題の解決には、ハイテクの治療を中心とする近代西洋医学だけでは限界があることから、地域の文化・生活に根ざした伝統医学や相補・代替医療への関心が高まっています。また、病気の治療だけでなく病気の予防を見据えた地域振興と産業振興、そして医療・健康領域における将来有望な産業の育成が、国家戦略として求められています。

とくに病気の予防においては、特定の病気の予防のみならず、心身ともにパワーアップすることにより、あらゆる「未病を治す」ことの大切さが注目されてきています。「未病を治す」ことは、東洋医学の「養生」のゴールであり、「養生」を中心とする東洋医学の考え方が統合医療において改めて注目を浴びるようになってきています。

豊かな大自然のもとにある北海道は、日本における「菜園の道州(garden state)」として、その豊かな「食」による「養生」を通じて、人々のクオリティー・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献することができると思います。日本統合医療学会北海道支部は、このような北海道における研究成果の発表等を通じて統合医療に関して広く情報を共有する場でありたいと考えております。この理念をご理解いただき、日本統合医療学会北海道支部に参加していただけることを願っております。

日本統合医療学会北海道支部への入会のご案内

日本統合利用学会北海道支部
評議員 常俊 優
(ノーステック財団専務理事)

わが国の医療費は9年連続で増え、2011年度は37兆8千億円となり、過去最高記録を更新しています。高齢者の増加や医療の高度化などによって増加したと厚生労働省は分析していますが国や地方自治体の財政事情を斟酌すると、なによりも病気にならないよう予防する。あるいは“未病”段階の人々の健康を回復させるなど、「予防医療」の推進が喫緊の課題となっています。

また、高齢化の進展や生活習慣病の蔓延によって、高齢者の健康増進、食生活の改善、運動の推進などの具体的対策が必要になっていますが、私どもノーステック財団では、食の3つの機能(栄養、嗜好・食感、生体調節)を“科学の力”によって解明し、それら食の機能を活用してそれら食の機能を活用してそれらの課題に取り組んでいます。特に、食生活の欧米化(肉や脂質)が原因のひとつとされる生活習慣病については、食の「生体調節」機能を活用して予防医療の実施や未病の回復を図っていこうと考え、積極的な取り組みを展開していきます。

統合医療は、現在のわが国における医療の主体となっている「対症療法」を中心とする近代西洋医学と、病気とともに人の心身全体を診る「原因療法」を中心とした伝統医学や相補・代替医療、この二つを統合して両者の特性を最大限に活かし、患者個人のQOL(生活の質)の向上を目指そうというものです。救命救急や外科手術の臨床現場では西洋医療が実施されていますが、慢性疾患の治療や予後の療養、さらに近代西洋医学では治療不可能と言われた症状に対し、伝統医学や相補・代替医療の有効性が数多く報告されています。私は、食の機能性を活用したノーステック財団の取り組みも統合医療のひとつと考えています。

患者のQOLを重視した統合医療は、さらなる研究や社会システム的要素を内包する「未来型医療システム」であり、関係するメンバーが持てる力を出し合って推進していく必要があります。道内の研究者や企業の方々にもご支援ご協力を賜りたく、統合医療学会の趣旨をご理解いただき、北海道支部にご入会いただきますようお願い申し上げます。

平成 年 月 日

日本統合医療学会(IMJ) 北海道支部 入会申込書

会員番号

ふりがな

氏名

所属(勤務先等)

ご連絡先住所 〒

TEL

FAX

ご記入の上、FAXまたは郵送にて下記事務局宛てにお送りくださいますようお願い申し上げます。

日本統合医療学会(IMJ) 北海道支部事務局

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条6丁目5-1

特定医療法人北楡会 札幌北楡病院図書室内

TEL 011-865-0111 FAX 011-865-9719

E-mail:jact-h@hokuyu-aoth.org

※賛助会員としてご入会希望の方は別途ご案内させていただきますので、お手数ですが上記のメールアドレスまたはお電話にてご連絡いただけますようお願い申し上げます。

**営業品目**

農業用薬剤、林業用薬剤、家庭園芸用薬剤、ゴルフ場用薬剤、水稲育苗用人工床土、園芸育苗用人工床土、道路・公園管理用薬剤、種苗・花卉・食品等の販売、水・土壤・大気等環境に関する測定分析等、健康食品



HOKUSAN

〒061-1111 北海道北広島市北の里27番地4 TEL(011)370-2100 FAX(011)370-2050

地域に根ざし、 福祉とビジネスの両輪を力強く

SELIP

リハビリ・クリーナース
障害福祉サービス事業所
クリーニング(ホームランドリー・リネンサプライ等)
TEL(011)375-2112(代) FAX(011)375-4052

リハビリ・エイト
障害者支援施設
印刷(デザイン・オフセット印刷・スクリーン印刷・
特殊印刷・オンデマンド印刷・ホームページ作成
大型インクジェットプリント出力等)
TEL(011)375-2116(代)
FAX(011)375-2115

セルフさっぽろ
障害福祉サービス事業所
縫製(ユニフォーム・白衣・事務服・作業衣等)
鞋作業
TEL(011)857-1111 FAX(011)857-1113
ウェルプラザやまはな
クリーニング
TEL(011)561-3309 FAX(011)561-3673

**北海道
リハビリ**

エルфинホーム
共同生活介護・共同生活援助

札幌ワークセンター
障害者支援施設
TEL(011)885-1001
FAX(011)885-2100

リハビリ・おおぞら
障害福祉サービス事業所
クリーニング(病院寝具・おむつ等)
TEL(011)375-2112(代)
FAX(011)375-4052

陽だまり
自立援助ホーム

社会福祉法人 北海道リハビリ

〒061-1195 北海道北広島市西の里507番地1
TEL(011)375-2111(代) FAX(011)375-4051 www.selip.net
理事長 五十嵐 勘 常務理事・総合施設長 平沼 栄二